

池田文書の研究 (二十七)

入沢達吉の書簡について (その三)

池田文書研究会

21 明治 年一月二十六日

三八二 入沢達吉 池田謙齋

尚々、小生昨日一ト通り亀助君ニ申シ置候、此ノ上の入院之説諭等ハ、甚だ御迷惑ナガラ、賢叔様にて宜しく御取計

被下候様願度候

拜啓、陳は今日呉君ニ面会致、相尋候処、自費室男ノ方、多分都合出来可得ト申シ被居候故、若シ愈御入院之事ニ相極まり候はハ、小生呉氏ニ手紙認め可申候間 (呉氏ニハ一ヶ月ニ一度位、会合スル丈ケニ御座候)、御塾の書生にても、明日朝ナラバ宅え、昼前後ならば病院迄御遣ハシ被下度候、先は右而已申上度、早々頓首

一月廿六日夕 入沢達吉

池田御叔父様

侍史

(斎藤)

(1) 亀助君……謙齋の妹石田かずの息、猪山亀助。達吉の従弟。

(2) 呉君……呉秀三。東大教授、精神病学者、昭和七年没。

22 明治 年二月十五日

三七八 入沢達吉 池田謙齋

拜啓、陳は昨日は拙宅え御尊来被下候趣に御座候処、小生不在中にて失礼申上候、又今日は、御鄭重なる御祝物御惠贈被下、難有御礼申上候、扱唯今、猪山殿之来診候処、膀胱は尿、淋瀝致候ニモ拘ラズ、甚シク充滿シ、殆ンド臍部迄達セル児頭大の腫瘍ヲ呈シ居候、全ク *Ichinia pardosa* 之状態ト存候ニ付、拙宅ニ持合せの、稍や不完全なるカテーテルを取寄せ、排尿セシメ候処、約五合位モ出テ候半軟ト存候、又直腸モ硬便ニテ填塞致居候故、指ノ達スル処マデハ掘り出だし申候、明方ニ精神ハ昏朦之為、僅カニ、前記の処置致居候中ニモ、僅カニ苦悶ノ声を発セシ位ニ止マリ申候、此模様ニテハ、一昼夜一―二回位ハ、カテーテルにて排尿セシムル必要有之ト存候故、明日秀男君、御来診被下候節ニハ、適當のカテーテル御用意被下度候、(石炭酸油、アルコホル、其他も御携帶被下候はハ、好都合に奉存候)、明日小生、呉氏に巢鴨病院之事相尋ね、猶時日を要し候様ニ候はハ、過日申上候田端

へ入院之事、可然存候、(丁度一昨夜、今町方参り候一精神病者アリ、右ハ今日田端病院え、呉氏ノ紹介にて入院致候、敏太君御関係ノ患者にて、同君多分今日、ソノ為メ田端へ被参候事ト存候)、小生明日ハ、夜遅く帰宅ノ事ニ可相成存候、右ニ付、若シ秀男君御差支ニ候ハ、福井君ニても排尿の事御命じ置被下度、相願候、先ハ右不取敢申上度、草々頓首

二月十五日夜七時 入沢達吉

池田御叔父様

侍史

(斎藤)

二月十六日 入沢達吉  
池田御叔父様

(斎藤)

(1) 小松宮殿下……：彰仁親王(伏見宮邦家親王第八男子) 明治三十六年二月薨。か。

24 明治 年十月十三日

四一八 入沢達吉 池田謙斎

- (1) Ischimia paradoxax... Ischaemia paradoxax 奇異虚血。
- (2) カテーテル……：管状医療器械。導尿管。
- (3) 巢鴨病院……：東京府巢鴨病院。医長呉秀三。現東京都立松沢病院の前身。
- (4) 敏太君……：謙斎弟茂の息。達吉従弟。

23 明治 年二月十六日

三八九 入沢達吉 池田謙斎

□啓、陳は呉氏、小松宮殿下之方へ伺ハレ、今日ハ不在にて、面会仕兼候、然し猪山殿ハ最早既ニ、執しノ病院□□トモ、入院の時期ハ過ぎ去リタル如く被思候か、御高見□如何ニ被為在候哉、先は右而已、出先方一寸申上度、早々頓首

芳書拝見仕候、御来書之趣敬承仕候、扱、ベルツ、スクリバ両氏銅像建設之挙ハ、幸二世ノ賛成を得、メ切前ニ既ニ予定額以上之出金申込有之候事、今更他へ御勧誘申上必要は無御座候得共、是レモ医者社会之一種の附キ合ノ性質ヲモ帯ビ居候次第にて、且ツ御令嗣も医者トナラレ候事ニモ有之、又特ニ、宮内省方御下賜金も可有之哉ニ洩レ承リ候事に御座候、旁た金額の多少ハ論ゼズ候へ共、此際幾分にて、御醜金被遊候方、御穩当ナランカト心付き候俟、不顧失敬、是レハ小生ノ婆心にて、為貴家御反省を請ひ度候為、申上候義に御座候、御取捨ハ執レニ致候も、他意ナキ次第に御座候間、不悪御賢諒被下度、先は右重て得貴意度、如此、早々頓首

十月十三日夕 入沢達吉

池田御叔父様

侍史

(斎藤)

(1) ヘルツ・スクリバ両氏銅像建設……明治四十年四月  
建立。

25 大正 年九月二十一日

一三三九 入沢達吉 池田御叔父

拝啓陳は、来廿五日御法会御招待を辱ふし、難有奉存候、同日  
日兩人御推参可汚席末奉存候、先は右御答まで申上度如此、  
草々頓首

九月廿一日

入沢達吉

同節子

池田御叔父様

尚々秀男様其後如何被在候哉、不順の時候ニ御坐候故、繰々  
御用心祈上候也

(斎藤)

26 大正七年四月十九日

四一六 入沢達吉 池田秀男

(封筒) 相州鎌倉町長谷新宿池田秀男様

拝啓、小田原よりの御書状拝見致候、小生ハ新潟へ参居候為、  
帰京致し御書状拝見、早速駿河臺へ参候処、御令聞には既ニ  
小田原御出立の後にて不得拝眉候が、<sup>〇〇</sup>モの問題ならば如何  
様にもナリ候故、小田原がよろしくば永ク滞留を御すしめ致  
さんと思候次第ナリ、然しモハヤ鎌倉ニ御移りニ相成候事ニ  
相成候はハソレにてもよろしく候故、可相成永くユルく御  
養生の程祈上候、○小生一昨日大森へ参上致候、先日ニ比し  
多少御扶方に御見受申候状、何時何が起くるや予期難致候、  
貴君ハ免二角充分御保養相成、全然無理ト相成候上ハ、可相  
成静養ノ事宜しくト存候、折角御自愛專一祈上候、草々頓首  
七年

四月十九日 入沢達吉

池田秀男様

貴下

(田中)

(1) 相州鎌倉町長谷新宿……秀男は明治三十五年、大正

七年まで鎌倉に滞在。

(2) 大森……謙斎別宅。

27 昭和十年四月二十五日

四一一 入沢達吉 池田真次郎

(封筒表)

池田真次郎様

(封筒裏)

東京市外、杉並町田端七四三(電話四谷一〇二七番) 入沢達吉

前略、目下上野の科学博物館に開催中のシーボルト展覧会ニハ、いろ／＼の出品アリ、シーボルトの Fauna et Flora etc 沢山あり候が、殊に同人の再渡來の時の文久元年の日記(今ハ開會中手ニトリテ見ル訳ニハ行カナイガ——後日ハ其便アルベシ) 九月廿七日ノ部、貴君ノ御曾祖父玄仲翁(当時多仲ト称セラル)「シ」を往訪ノ記事アリ候、

(欄外註) 三階ノ隅ノ棚ノ中ニアリ

外ニ其棚ノ一すミ多仲翁ノ「名刺」ノ写真もアリ候、外ニ大 学ニ「ドイツ」カラ参リ候分ハ資料中にも別に「名刺」が一 枚アリ候、右一度御覽も可然(廿九日迄)ト存じ申上候、 草々

十、四、二五

池田真次郎様 入沢達吉

々 Flora Japonica (『日本植物誌』)

28 昭和十一年十二月九日

一二四三 入沢達吉 遠藤参夫

(封筒表)

日比谷、三信ビル内、三井信託株式会社 不動産部にて 遠

藤参夫殿侍史 池田真次郎君持参

(封筒裏)

東京市杉並区西田町一丁目七四三番地 入沢達吉 四谷(35)

一〇二七番

拝啓、愈御清適奉賀候、陳は小生の親戚男爵池田真次郎と申 候者(杉並区西田町一丁目居住) 其所有に係る世襲財産及其 他ノ土地之管理に關し、貴会社ニ御願度御紹介申出候間宜布 御配慮之義願上候、右ハ既に其友人なる貴社員大迫氏に一 心御話申参候由に御坐候、今迄は差配人を雇置候も都合有之、 今後貴会社に御管理御願致度、申出候次第に御坐候、委細直 接本人方御聞取被下度相願勿々不一

昭和十一年十二月九日 入沢達吉

三井信託株式会社不動産部

遠藤参夫殿

侍史

(一) Fauna et Flora……Fauna Japonica (『日本動物誌』)

(京藤)

29 昭和 年一月二十二日

四一三 入澤達吉 池田房子

(封筒表) 池田房子様人々

(封筒裏) 東京市杉並区西田町一丁目七四三番地入澤達吉四谷

(35) 一〇二七番

拝啓、小池氏番地如左御坐候、安藤氏<sup>コセキ</sup>友安細の戸籍を參上候、  
令嬢ハ東京府第二高等女学校出身の由御坐候、先ハ右申上候  
事ニテ小生今晚方旅行致し候

一月廿二日 入澤

池田様

(田中)

(1) 池田房子……秀男妻、沖宋固長女。

30 昭和十二年二月二十五日

三八八 入沢達吉 池田房子

(封筒表)

池田房子様

(封筒裏)

東京市杉並区西田町一丁目七四三番地 入沢達吉 四谷

(35) 一〇二七番

口上

先日の卒業証書ハ大森にも無之候、又雑誌社から謙齋先生の  
御写真を借りに参り候、小生方<sup>コセキ</sup>にあり候モノ引越しにて唯今  
一寸いづれにかまざれ込み候一両日中に貴宅のもの拝借致  
度候間、宜く奉願度、

十二、二、二五 入沢達吉

池田房子様

(斎藤)

31 昭和十二年六月八日

一二四五 入沢達吉 池田房子。

(封筒表)

池田房子様親展上置

(封筒裏)

東京市杉並区西田町<sup>ニシクヤマチ</sup>一丁目七四三(電話四谷一〇二七番)

入沢達吉

拝啓、陳者今朝私の知合の旧華族の弟から、或る新華族の娘

を池田家に如何か、是れを尋ヌル為、明朝宅へ参られ候事に相成候、(欄外註、ソノ名モ申シ候、小生も知り居る有名の人にて候)就てはヨク聞いて見なければワカラズ候も、兎二郎原氏の方、少し、ソノマ、に致し置かれ候事宜シクト存候、孰れ(明日可申上候)、其人は明日昼頃参られ候はづ)

十二年六月八日 入沢達吉

池田房子様

(斎藤)

32 昭和十二年七月二十九日

四一四 入澤達吉 池田房子

(封筒裏) 東京市杉並区西田町<sup>ニシタマチ</sup>二丁目七四三(電話四谷一〇

二七番) 入澤達吉

(註) 余白に

残五〇・四六現金

一六三・二二支出

一三五 七一・八八残るべき

一〇〇 不足二二・四二也

一三五

〔1〕 瀬戸孝子

大正六年八月廿日生

一、身体 壮健(身長五尺一寸)

一、本春 自由学園高等科卒業

一、趣味 ピアノ

一、性質 快活

一、家族 両親 妹三人 弟二人

拜啓 陳は昨日瀬戸氏と面会致しました、今朝返事がありまして来ル八月一日日曜日午後に見会の事にきめました、午後三、四時頃といたしました、場所ハ上野精養軒にてお茶がよろしいと思ひます、いかゞでござります、もう一つ別の事御返事願ひます、先日瀬戸氏の時三日で調ができた興信所ハドチラでゴザリマスか(内尾ト云ふのが二軒ありますが、別紙のモノデアリマス、それとも別の方でありますか、御返事願ひ、先ハ右申上候、草々

十二、七、二九正后 入澤達吉

池田房子様

尚、常子も今晩か明朝帰ります

(1) 瀬戸孝子……真次郎(秀男次男)の妻。

(2) 常子……達吉妻。

33 昭和十二年八月十二日

一二四一 入沢達吉 池田房子

(封筒裏)

東京市杉並区西田町一丁目七三一 池田真次郎様御内

池田房子様人々

(封筒裏)

新潟県赤倉温泉<sup>(1)</sup> 入沢達吉

拝啓、其後胃之方如何に候哉、折角御養生祈上候「真次郎君の方ハ異議無いとまできゝましたが、先方の返事ハいかゞにや、○新潟県知事からのまれ九月廿日後に新潟で二、三回、明治天皇が北越御巡幸六十年の記念講延をたのまれました、ソコで御宅に明治天皇から御頂戴ノ御品(一番よろしいのは明治天皇が御用ニ<sup>モテイ</sup>なつた御品||或ハ頂戴のかけもの等にててもよろし)御坐候はゞ演説ノ時見せる為、二、三日拝借イタシ度く候、新潟県知事へ返事ノ都合御坐候故、一寸此地まで御返事被下度願候、先ハ右御願迄申上度、

十二年八月十二日

赤倉にて 入沢達吉

池田房子様

(斎藤)

(1) 赤倉温泉……赤倉の別荘(伽羅山荘)。

(2) 北越御巡幸……明治十一年秋の北陸・東海巡幸。

34 昭和十二年八月二十一日

一二四四 入沢達吉 池田真次郎

(封筒裏)

池田真次郎様 八月二十一日

(封筒裏)

東京市杉並区西田町<sup>ニシタマチ</sup>一丁目七四三(電話四谷一〇二七番)

入沢達吉

拝啓、御葬儀無滞相済み安堵致候、小生之為めに会葬して呉れ候人もあり候故||小生昨日十一時三十分方大学に用事あり候為中途にて帰り候||会葬者名簿一覽致度候処、明日赤倉二集会あり候為、今朝出発帰山致候、孰れ月末又ハ九月初帰京の上、右名簿拝見致度候、書外は常子も可申上候、勿々

十二、八月二十一日朝

入沢達吉

池田真次郎様

(斎藤)

(1) 御葬儀……昭和十二年八月房子(真次郎の母)死亡。

35 昭和十二年十一月十一日

三八四 入澤達吉 池田真次郎

(封筒表) 池田真次郎様上置

(封筒裏) 東京都杉並区西田町一丁目七四三(電話四谷一〇

二七番) 入澤達吉

拝啓、陳は曾て地震前に駿河台之貴家の書棚にて謙齋先生明治初年のドクトル学位論文発見致候(厚い赤表紙の薄いドイツ文の論文)

ドイツに於ケル日本人ノ最初の論文と存候

是は大切に金庫に入レテ置カレ度シと御尊母様に申上候事有之候、然るに其後荻窪ニテ一度御尋致シタル処ニシマツテアルト御話しありしやに記憶致候ニ右一覽致度候間近日中に御ひま之節土蔵にても御サガシ被下度

今日方日独展覧会初マリ思ひ出し候

又弊屋の儀、買主の方より都合あり、世間へは当方借りテ居ると云ふ事にして呉れと申し被来候故(売買ハ成立スルモ登記セズ)ソノ御含み御願候、先ハ右申上度、

十二、十一月十一日夜

入澤達吉

池田真次郎様

(斎藤)

(1) 地震……関東大地震(大正十二年九月一日)。

36 昭和十三年二月十一日

四二二 入澤達吉 池田真次郎

(封筒表) 池田真次郎殿上置

(封筒裏) 東京都杉並区西田町一丁目七四三(電話四谷一〇

二七番) 入澤達吉

前略、陳は今日より丁度五十年前之官報にて発表セラレ候帝國憲法、先日之葛籠之中に発見致候に付今朝御届申候、終りに御祖父様之御手記有之候、小生も所持致居候も焼失致候、却説、古尺牘整理ハ今月方雇入候執事と共に毎日ポツポツ致居候、却々厄介にて多少時日を要し候間暫く御猶予被下度候、併し其代り小生に取りては金銀珠玉にも代へがたき珍品を見出し申候故、興味を以て従事致居候、いづれ完済之上緩々御出を請ひ説明申上度存候、先は右申上度、孝子様へも宜布相願候、勿々

昭和十三年

二月十一日朝 入澤達吉

池田真次郎殿

尚々五十年の今日ハ、小生新宿学士として大学の宿間に



居り、夕方より炬火行列 (ホントウのたいまつ行列) 日  
本の家屋木造にてあぶなきを為め、此ノ一回限りにて止メ  
になり、且以後ハ提灯行列に代り相成候) に加はりし事  
思ひ出し候也

(田中)

十三、三、十六日朝 入澤達吉  
池田眞次郎様  
同 孝子様

(1) 御祖父様……謙斎。

37 昭和十三年三月十六日

四一五 入澤達吉 池田眞次郎・同孝子

(封筒表) 池田眞次郎様、明朝返事、廿日夜の部

(封筒裏) 東京市杉並区西田町<sup>ニシケマデ</sup>二丁目七四三 (電話四谷一〇

二七番) 入澤達吉

拝啓、陳者水谷八重子の芝居に御両処を御招待申上度候間、  
左記両日之内御都合よろしき日御洩し被下度候、

昼興行 夜興行

廿日 (日) 正午より

(マチネ) 五時半迄

明廿一日 (祭日) (マチネ) 五時半迄

私ハ昼興行を望み候も、札がトレナケレバやはり夜興行より

外致し方ナシ、先ハ右申上候、草々

(田中)